

東京都へき地医療支援機構通信

毎号、都のへき地医療対策の行政情報やへき地医療従事者インタビューなどを連載していきます。今号の行政情報は、東京のへき地医療機関と都のへき地の医師確保対策の取り組みを紹介します。

- 1 ページ…東京都のへき地医療機関(医科)について
- 2 ページ…都のへき地の医師確保対策について
無料職業紹介事業所からのお知らせ
- 3 ページ…医療従事者インタビュー（医師）
- 4 ページ…医療従事者インタビュー（臨床工学技士）

東京都のへき地医療機関（医科）について

町村名	島しょ名	東京からの およそ の距離 (km)	人口 (人)	医療機関名	開設	医師数 (人)	病床数 (床)
大島町	大島	109	8,763	大島医療センター 大島医療センター南部診療所（出張）	公民	<u>7</u>	19
				前田内科クリニック	民間	1	0
利島村	利島	134	297	利島村国保診療所	国保	<u>1</u>	0
新島村	新島	151	3,068	新島村国保本村診療所 新島村国保若郷診療所（出張）	国保	<u>3</u>	10
	式根島	157		新島村国保式根島診療所	国保	<u>1</u>	2
神津島村	神津島	172	2,001	神津島村国保直営診療所	国保	<u>2</u>	6
三宅村	三宅島	179	2,815	三宅村国保中央診療所	国保	<u>3</u>	12
御蔵島村	御蔵島	199	309	御蔵島村国保御蔵島診療所	国保	<u>1</u>	2
八丈町	八丈島	287	8,335	国保町立八丈病院	国保	<u>6</u>	54
				徳重医院	民間	1	0
				岩淵クリニック	民間	1	0
青ヶ島村	青ヶ島	358	174	青ヶ島村国保青ヶ島診療所	国保	<u>1</u>	2
小笠原村	父島	984	2,486	村立小笠原村診療所	村立	<u>2</u>	4
	母島	1,033		村立小笠原村母島診療所	村立	<u>1</u>	4
檜原村	山間		2,771	檜原村国保檜原診療所	国保	<u>2</u>	2
奥多摩町	山間		6,306	奥多摩町国保奥多摩病院 奥多摩町国保日原診療所（出張） 奥多摩町国保峰谷診療所（出張）	国保	<u>4</u>	49
				古里診療所	公民	<u>1</u>	0
				川辺医院	民間	1	8
				双葉会診療所	民間	1	10
				合計			37,325

（注）上記の表は、平成22年4月1日現在の東京都のへき地の一般医療機関（医科）。

人口は、平成22年1月1日現在の「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」による。

東京からのおよその距離（km）は、東京都総務局「東京諸島の概要—平成21年—」による。

国保…国民健康保険直営診療所及び病院、村立…自治体立医療機関

下線の医師数は、へき地町村の公立医療機関の医師数

都のへき地の医師確保対策について

前頁で紹介したへき地の公立医療機関の医師数は、町村が確保した医師を含めて全体で35人、そのうち、26人の医師を東京都が確保しています。

都は、これらの医師を確保するために、次の様々な医師確保対策を行っています。

——まず、自治医科大学卒業義務年限医師による確保です。

自治医科大学を卒業した医師11人を派遣しています。派遣場所は、いずれも総合医を必要とする医師一人の小離島や中規模離島、又は山間へき地です。

特に東京都の離島は、東京の本土から、最短でもおおよそ100キロから最長1000キロまでの11島の超遠隔離島であり、かつ交通アクセスが不便であることから、住民数の多少に関わらず、最低でも1島に1名以上の医師が必要です。

このようなへき地にこそ、自治医科大学を卒業した総合医を配置する必要があります、確実に派遣していかなければなりません。

(参考)自治医科大学は、医療に恵まれないへき地等で地域医療を担う医師を養成するため、47都道府県が共同で設立した医科大学です。東京都の合格者枠は、毎年2～3名程度。卒業後は、9年間の義務年限中に都知事が指定するへき地勤務(派遣)に4年6ヶ月間従事します。

——次に、東京都へき地勤務医師等確保事業による都内大学病院等の事業協力病院からの確保です。

現在の事業協力病院(※)は、医科では9病院で、15人枠の医師の派遣を協力していただいています。

※事業協力病院名(アイウエオ順)

杏林大学医学部附属病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、聖マリアンナ医科大学、地域医療振興協会、東京医科大学病院、東邦大学医学部附属大橋病院、多摩総合医療センター(旧都立府中病院)等の都立・公社病院、日本医科大学附属病院(歯科は、日本大学歯科病院)

都は、安定的かつ長期に医師を派遣するため同一医師による3ヶ月以上の派遣に対して、事業協力病院へ謝金を交付しています。都内でも医師不足が深刻化する中、へき地に派遣を継続してもらうよう、今後とも、都と町村が医師確保の努力を行う必要があります。

——最後に、東京都地域医療支援ドクター事業による確保です。

前述の自治医科大学卒業義務年限医師や東京都へき地勤務医師等確保事業による医師の派遣の他に、平成21年度から新たな医師派遣システムとして、医師不足が深刻なへき地や小児・周産期・救急医療などの診療科偏在が顕著な公立医療機関へ医師を派遣する東京都地域医療支援ドクター事業を開始しています。

地域医療の支援に意欲のある医師を「東京都地域

医療支援ドクター」として都が採用し、多摩・島しょ地域の市町村公立医療機関へ一定期間派遣するもので、平成22年度は、へき地の公立医療機関へ1名派遣します。

——以上の施策により、長期の医師を派遣する医師確保対策を行っていますが、その他に、東京都へき地医療支援機構は、へき地医療機関の診療支援の一環として、代替医師の臨時派遣の確保・派遣調整も行っています。

これは、へき地の公立医療機関の固有医師や自治医科大学卒業義務年限内医師が、休暇や研修等で当該医療機関を一時的に離れる場合に、臨時的に代替医師を派遣するものです。

平成21年度は、へき地の公立医療機関からの臨時派遣の要請に100%(73回・573日)対応しました。

臨時派遣医の内訳は、代診登録医、自治医科大学卒業義務年限の研修医師、及び都立病院・事業協力病院の医師などです。

東京都へき地医療支援機構無料職業紹介事業所からのお知らせ

東京都へき地医療支援機構無料職業紹介所では、へき地医療機関での勤務を希望する方に対し、就職の相談・斡旋・紹介等を行っています。取扱職種は、医師、歯科医師、薬剤師、(准)看護師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、歯科衛生士、歯科技工士、臨床工学技士、栄養士です。

ホームページでは、へき地医療機関の求人情報を掲載(随時更新)するほか、無料職業紹介事業所への登録方法等もご案内していますので、ご覧ください。

◆東京都へき地医療支援機構無料職業紹介事業所 問合せ先◆

電話 03-5320-4428 FAX 03-5388-1441

メール 0000299@section.metro.tokyo.jp

ホームページ

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/joho/>

[shokuin/tousyo_bosyu/index.html](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuin/tousyo_bosyu/index.html)

※現在、医師、看護師、助産師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士を募集中です!!

<よくお問合せをいただく事項>

Q

へき地の診療所で働いてみたいと思っています。どのような手続きを行えばよいですか?

A

まずは、無料職業紹介事業所への登録をお願いします。登録用紙はホームページに掲載していますので、必要事項を記入後、来所、郵送、電子メールいずれかの方法でご提出ください。ホームページをご覧いただけない方は、本所までお電話でお問合せください。なお、将来的にへき地勤務を希望する方についても登録を受付けていますので、お気軽にお問い合わせください。

医師 藍沢 隆雄 先生（44歳）
（檜原村国民健康保険檜原診療所）



「継続してその場に居ることが大切」

——現在の診療所で勤務するきっかけは何ですか？

自治医科大学を卒業し、へき地勤務を行っていきな
か、9年間の義務年限終了後も、東京都のへき地医
療に関わっていきたいと考えておりました。義務明け
のタイミングと、檜原村に30年以上勤務された内田先
生の退職が重なり、平成11年から、檜原診療所で勤務
しています。

——診療所はどこなところですか？

檜原村は東京都の西部にあり、北は奥多摩町、南は
山梨県の上野原市と接しています。東西14km、南北
10kmと広く、その93%を山林が占めていますので、
「東京の空気清浄機」として機能していますが、スギ
が多く、花粉症の季節はつらいです。檜原村には、日
帰りハイキングができる「都民の森」や、冬は凍結す
ることもある「払沢の滝」があり、名所です。

診療所はどちらかというところとあきる野市寄りにあり、
平成11年4月に、デイサービスセンター、福祉作業所、
児童館などとともに、「檜原村やすらぎの里」としてオ
ープンしました。立派な建物なので、よく観光スポッ
トと間違えられます。施設はまだ新しく、とても快適
に仕事をしています。

——1日の仕事の流れを教えてください。

朝は9時から診療が始まります。先輩の田原Drと医
師2名体制ですが、それぞれ週1日、研修日をいただ
いているので、実際2名で診療しているのは、月曜
から土曜のうち、週3日です。午前中は内・外・小児科
の外来診療と並行して、内視鏡、エコーなどの検査を
行います。午後は往診、特別養護老人ホームでの診察、
各種健診や予防接種、一般外来を行い、夕方はカルテ
のレビューなどを行っています。島の診療所と違って、
陸続きなので、産婦人科、眼科、整形外科疾患につ
いては、患者さんも最初から専門医を受診することが多
いです。

——診療所での勤務はいかがですか？

実は、平成16年に一度、檜原村を飛び出したことが
あります。結局、3年後に再び戻ることになったので
すが、外から見ると、檜原村の皆さんの温かさがよく
分かりました。また、10年間もいると、昔みていたお
子さんが社会人になったり、お母さんになって受診し
ていただくこともあり、継続してその場に居ることの

檜原村 DATA

場所：東京都西多摩郡 人口：約2,600人

診療所への交通手段：JR五日市線武蔵五日市駅下車、バス約
25分

大切さを実感します。義務年限中のへき地勤務は、半
年から長くて2年単位の勤務だったので、そのように
感じています。

また、へき地にいると、検査や処置などの絶対数が
減ってしまうにもかかわらず、様々な手技を期待され
ます。中には、コンスタントに経験することがない処
置もあるので、それを補うために、研修日には、都会
に出て訪問診療を行っています。

——へき地での生活はどうですか？

現在は、檜原村ではなく、八王子市に住んでいます。
義務年限中は、当然、赴任した島などで生活するの
ですが、やはり自分の生活に関わっている方を患者さん
として診療するのは難しいことだと思います。自分の
家族を診療することが難しいのと同じです。昨年夏に
12年ぶりに新島に行ってみたのですが、とても楽しか
ったです。未だに覚えていてくださる方もいて、嬉し
い限りです。いまだに、時々島の桟橋で釣りをしてい
る夢を見ます。

——休日は何をして過ごしますか？

八王子市のシニアのサッカーチームに入れていただ
き、毎週日曜の朝に練習しています。あとは、2年前
にひょっこり生まれた3人目の子供と遊んで過ごすこ
とが多いです。

——最後に、へき地医療を希望する医療従事者へのメ
ッセージをお願いします。

僕は、義務年限中を含めると、これまでに、利島、
青ヶ島、御蔵島、新島と、新島以外は医師が1名しか
いない島で勤務していました。一人で何でも診て、何
でも治せば良いのですが、Drコトーのような医者は
なかなかいないと思います。そうは言っても、頼りに
なるのは現地の医師ですから、まずは患者さんのニー
ズを把握して、少なくとも悪い方向にはもっていか
ないこと、適切に専門医に紹介することが大切です。そ
のためには、日頃から様々な専門医や医療機関とネッ
トワークを持つことが必要だと思います。

——ありがとうございました。



この「檜原村やすらぎの里」内に診療所があります。

臨床工学技士 佐藤 繁夫さん (57 歳)
(大島医療センター)

「自然豊かな離島の診療所で勤務して」



——現在の診療所で勤務するきっかけは何ですか？

ある専門誌で、離島・へき地医療の現場で活躍する臨床工学技士の紹介記事を読んだのがきっかけです。当センターに就職する前は、1年間の臨時嘱託で沖縄県の離島で、技士業務に従事していました。そこで、さらに離島医療に関心を抱き、昨年春に、東京都福祉保健局の無料職業紹介所のホームページを見て応募しました。あとは、趣味としているルアーフィッシングができること。自然があり、生活環境の条件が気に入ったのも要因となりました。

——診療所はどんなところですか？

大島町には定期船（ジェット船、大型客船）が就航する港が2ヶ所（岡田港、元町港）があります。勤務する大島医療センターは、元町港から車で5分足らずの大島町役場の近くに 있습니다。



島の中心に位置する三原山

医療スタッフは常勤医師3名、非常勤医師4名、薬剤師1名、放射線技師2名、理学療法士2名、臨床工学技士1名、看護師20名、看護助手7名、事務職員10名の職種と人員構成です（※取材日現在）。天気の良い日は、医療センターの屋上より、富士山、東伊豆半島、伊豆諸島、三原山が眺望でき、雄大で絶景です。

——1日の仕事の流れを教えてください。

毎日8時前に出勤し、血液透析の諸準備（機器チェック、血液回路の充填確認等）をします。透析開始、透析中、透析終了の各段階の機器動作の保守管理や、透析終了後の機器の洗浄及び消毒、機器チェックリストの保安点検などが主な業務です。不定期ではありますが、看護師とのケースカンファレンス、患者様との会話も重要な業務です。休日、夜間は常時、オンコール体制を維持し、緊急で透析を行う患者様の受け入れを行います。また、旅行客の透析患者様も受け入れています。

——診療所での勤務はいかがですか？



当センターの透析設備は、必要なものが整っており、標準レベル以上の透析療法の提供を維持、管理しています。ゆえに、透析スタッフと一貫性のある、連携を築くことが

大島町 DATA

場所：東京の南約120キロ 人口：約8,400人

島への交通手段：定期船（東京竹芝～大島）で約8時間（夜発）、高速船で約105分、飛行機（羽田～大島）で約30分

できます。時には、患者様から、透析療法に関する疑問、質問をいただくこともあります。それは嬉しくもあり、また悩みでもあります。勤務して良かったと思うことは、患者様が快く、コミュニケーションを受け入れてくれることです。

苦労したのは、透析機器は主要なメーカーごとに機器の性能、機構、操作、メンテナンスの相違があるため、その相違による、業務上での障害が生じたことです。臨床工学技士は私1人体制のため、スタッフの一員である看護師の協力体制も考慮し、対処しています。通常運転操作のみならず、緊急時、非常時の操作基本マニュアルを習得するのには時間がかかりました。

——島での生活はどうですか？

大島は自然豊かで景観が素晴らしいので、地の利を生かし、休日は、ドライブやカメラを持っての散策、釣りをしています。また、色々な趣向を凝らした飲食店があり、食べ歩きも楽しみです。各温泉施設、宿のお湯めぐりも結構なものです。

食料品店には地場産物の、野菜、魚類などが豊富で季節を味わえますが、少々閉店時間が早すぎますね。

また、四方を海に囲まれていますので、風が強く、傘を飛ばされたり、宿舎のゴミ箱が行方不明になった



こともあり、風対策の習得が肝要です。

野田浜。夏は海水浴もできます。

——最後に、へき地医療を希望する医療従事者へのメッセージをお願いします。

離島は限られたエリア内の生活となるため、仕事でも、私生活でも、自分なりの目標を持ち、自分なりのストレス解消法を構築しておいてはいかがでしょうか。

また、休日には島の自然探索、歴史探索をすると、「島を知る」だけでなく、多面的な視野が広がり、島で勤務しながら生活することを楽しめると思います。

——ありがとうございました。

【編集・発行】

東京都へき地医療支援機構（東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課医療振興係内）

電話 03-5320-4428 Fax 03-5388-1441

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryu/sonota/hekichi_shienkikou/index.html

メール 0000299@section.metro.tokyo.jp

☆★ご意見・ご感想をお寄せください★★☆